

今より一歩、  
心地よい暮らしを考える。

7町エリア限定配布

ニュートラル  
Neutral  
News

No.09

## 内窓で変わった、 暑さ・寒さと向き合う暮らし

となりの

ニュートラル

となりのニュートラルは、ご近所のあの人が取り組んでいる、暮らしを豊かに心地よくし、環境にもやさしい工夫をお伝えします。今回お話をお聞きしたのは、籠田町にある「洋菓子BERN」を営む神谷武嗣郎さん・起世子さんご夫妻。ご自宅は、お店とは別の場所にある築約50年の3階建てのビル。そこに内窓（二重窓）を導入したことで、暮らし方が大きく変わったといいます。

### 断熱のない 古いビルでの暮らし

元は布団屋だったというご自宅の建物には断熱材が入っておらず、3階は屋上のすぐ下ということもあり、夏は熱がこもって強烈な暑さに。「帰宅直後はエアコンを19度の強風にして、まず部屋を冷やすところから」だったそうです。冬もエアコンだけでは足りず、ガスストーブとの併用が当たり前でした。窓の隙間から冷気が入り込み、厚手のカーテンをかけても足元の冷えが取れないことも、長年の悩みだったといいます。

以前、屋上の防水工事をおこなった際に夏の暑さがやわらいだ経験があり、「工事によって住環境は変わる」と実感していたところに、身近な方から断熱の話聞いたことをきっかけに、内窓の導入を検討し始めます。補助金を使えば費用を抑えて導入できると知ったことも後押しとなり、2024年に導入を決意されました。

### 採寸から半日で完了、 手続きもシンプル

そして迎えた工事当日、職人さんの手によって、計16枚の内窓設置が半日ほどで



滞りなく完了しました。外からの見た目や使い勝手、サッシの印象が気になるという不安も当初はあったそうですが、実際に仕上がりを見てみるとそうした心配は杞憂に終わったといいます。補助金の申請についても、設置業者より申請方法や必要書類について丁寧に教えていただいたおかげで、負担なくあっという間に申請することができました。

### まず驚いたのは「静けさ」

設置後、真っ先に実感したのは遮音効果でした。「窓を閉めた瞬間、外から聞こえてくる音が全然違う。こんなに変わるのかと驚きました」。近くでイベントなどが開かれていても気にならなくなり、息子さんの「うるさくて勉強できない」という言い訳も通用しなくなると笑います。温度面の変化もありました。冬は「最初の15分だけガスストーブで部屋を温めて、あとはエアコンをつけるだけ」でじゅう

ぶんに。夏は19〜20度まで下げていたエアコンの設定温度を、現在は26度前後の弱運転に変えても快適に過ごせるようになり、部屋全体がムラなく心地よく冷えるようになったそうです。エアコンによる冷えすぎで感じていた寝起きの体の重さもなくなり、睡眠の質も向上したといいます。

### 暮らしの空間への 意識も変化

効果を体感したことで、「玄関ドアの隙間風はどう防ごう」「他の場所はどう直そうか」と、住まい全体をより良くしたい気持ちが自然と湧いてきたといいます。電気代の高騰が続くなかでも大きな負担増を感じずに済んでいる点にも、省エネの実感があるそうです。日差しや風の通り具合に合わせて内窓を開け閉めするなど、天候に応じて自分で心地よい環境をつくる楽しさも増えたといいます。

「2階も内窓を導入したらもっと変わるかな」と、次の一手への意欲も高まっています。古いビルや家屋が多いこの地域だからこそ、建て替えずに快適さを手に入れられる内窓は心強い選択肢となるかもしれません。「古い建物を壊して建て替えるのは難しくて、今の空間を生かしながら内窓を取り入れる選択肢もおすすです」という神谷さんご夫妻の言葉に、確かな満足感が伝わってきました。



「洋菓子BERN」  
神谷武嗣郎さん・起世子さん

## 脱炭素先行地域って？ 国が選んだ「脱炭素のお手本」

こんにちは！岡崎市ゼロカーボンシティ推進課です。  
今回は「脱炭素先行地域」について、これまでの取り組みや、この地域が選ばれた理由、暮らしとの関わりを改めてお伝えします。

### 脱炭素先行地域とは？

「脱炭素先行地域」とは、2050年までに温室効果ガスの排出を実質ゼロにする取り組みを、ひと足先に形にする地域のこと。令和4年、環境省の「第2回脱炭素先行地域」に、亀井・二丁目、籠田・伝馬通一丁目、連尺通、康生通東・二丁目、南康生、唐沢の7町内会及びその周辺の公共施設等が選ばれました。この地域での成果を、いづれ市内全体に広げていくことも見据えられています。

### どんな取り組みをしているの？

取り組みの柱は、温室効果ガスの排出を抑えたクリーンな電気を「地域でつくって、地域で使う」とことです。住宅や店舗、公共施設の屋根などに太陽光発電・蓄電池を設置し、そこでつくった電気をそこで使う「自家消費」を進めています。一方で、設置が難しいお宅や、自家発電だけでは電気が足りない場合に備え、市内の余剰地に太陽光

発電などを整備し、地域新電力を通じて再エネ電力を届ける仕組みも進めています。

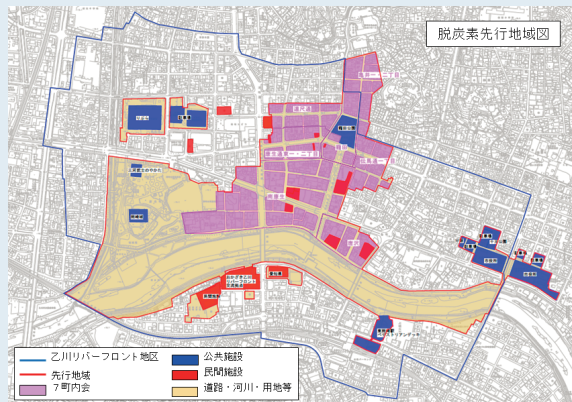
### 脱炭素先行地域の皆さんだけが使える！？ 支援制度

脱炭素先行地域にお住まいの皆さん限定で、市内全体向けよりも補助率・補助額が高い制度があります。エアコンの買い替えなども対象。予算には年度ごとの上限がありますので、ご希望の方はお早めにご相談ください。



### この地域が選ばれた理由

この地域では、戸建住宅、マンション、商店街、オフィスビル、公共施設まで、まちに必要な要素がひとつとおり揃っており、地域脱炭素のパッケージ化が可能であることに加え、人と人のつながりが強い地域であったという大きな決め手です。籠田公園と中央緑道の再整備をきっかけに、「7町・広域連合会」が立ち上がるなど、住民・



商店・世代の垣根を越えて力を合わせ、地域の課題を解決してきた実績があります。この地域の脱炭素は「地域の絆」から始まっているのです。

### 脱炭素で暮らしやすく

地域の脱炭素化には、住民・企業・行政が力を合わせて取り組みを進めることが重要です。「脱炭素」と聞くと難しく感じるかもしれませんが、実は光熱費を減らせたり、まちが少し暮らしやすくなったりする話でもあります。まずは「この地域が選ばれている」ことを知り、できるところから少しずつ関わっていただくと幸いです。

## まちなか ニューtral

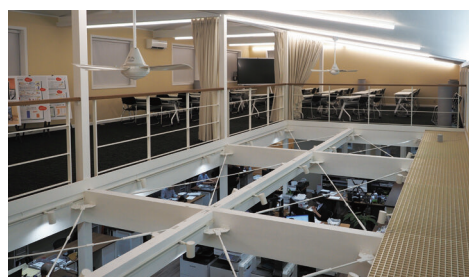
### 光熱費75%削減を実現、 自らが実験台となる 超省エネオフィス

ここでは、まちなかにあるちよっと環境を考えた身近な取り組みをご紹介します。今回は、岡町にオフィスを構え、材木の製造販売をおこなう岡崎製材株式会社。

岡崎製材は1977年創業、100年超の歴史を持つ老舗材木屋。取締役の八田壮史さんの祖父が1900年代にヨーロッパやアメリカを視察し、日本より格段に性能の高い建築技術を知ったことが、高性能建築への取り組みの始まりでした。

2025年4月、老朽化した当該営業オフィスを建て替え、超省エネ仕様の「オフィス・ラボ」を竣工。高断熱・高気密設計に加え、外気を床下に通して地熱と熱交換する仕組みや、軒の長さを工夫して日差しをうまくコントロールする設計（パッシブデザイン）を取り入れ、自然エネルギーを最大限に活用し、光熱費約75%削減を達成しました。災害や世界情勢に左右されない、エネルギー自給できる環境にもつながっています。

住宅の高性能化は進む一方、オフィスや医療施設など非住宅分野は遅れているのが現状です。一日の3分の1を過ごす職場、体調がすぐれない人が訪れるクリニック、子どもたちが過ごす保育園こそ、快適で安全な空間であってほしい。それはどの経営者や現場で働く人も願うことだという思いから、自らが実験台となりデータを蓄積しながら高性能化の普及を目指しています。そしてその先に脱炭素につながればと、発信を続けています。



### 読者アンケートにご協力ください

より良い発行物づくりのため、読者アンケートを実施します。今月号で関心を持った記事や今後掲載してほしい情報など、皆さまからいただいたご意見を今後に活かしてまいりますので、ぜひご協力をお願いいたします。アンケートは5分程度で完了します。QRコードからお気軽にご回答ください。



### 先着（抽選）10名様に限定グッズをプレゼント！

ご回答いただいた方の中から抽選で10名様に、岡崎市産材を使用した木製の一輪挿しをプレゼントします。お部屋にさりげなく飾れる、温かみのある一品です。ぜひこの機会にご応募ください。皆さまのご意見・ご回答を心よりお待ちしております。



ニュートラル  
ニュース  
とは

地域情報紙「ニュートラルニュース」は、QURUWA 7町エリア（亀井・籠田・連尺・東康生・南康生・唐沢・伝馬一丁目）で暮らす人や働く人たちの「今より一歩、心地よい暮らし」についてお届けします。そして、実はそれが環境にやさしい取り組みで、その輪を地域に少しずつ広げることを目指します。

バックナンバーはこちら！



発行元 ニュートラルニュース実行委員会  
岡崎市ゼロカーボンシティ推進課  
発行月 2026年9月  
印刷 合資会社永田印刷所  
企画・編集 Micro Hotel ANGLE（合同会社シテン）  
ライティング Micro Hotel ANGLE（合同会社シテン）  
デザイン 岡田侑大（ケルン）